

都市・地域マネジメント学

環境共生型都市研究室

Eco-Friendly City Laboratory

Staff ▶ 教 授:宮田 謙 (Yuzuru Miyata)

Key Word ▶

環境共生型都市、低炭素社会、環境経済学、空間(都市・地域)経済学
Eco-Friendly City, Low Carbon Dioxide Society, Environmental Economics, Spatial (Urban and Regional) Economics

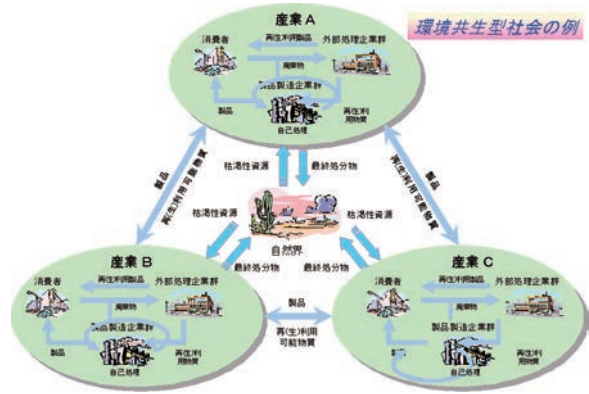
E-mail ▶ miyata@ace.tut.ac.jp

Web ▶ http://pm.hse.tut.ac.jp/kakenA/

テーマ1 ▶ 環境共生型都市の経済評価

Theme1: Economic Evaluation of Eco-Friendly City

環境共生型都市は環境負荷を最小にし、アメニティを最大化するような都市です。すでに廃棄物リサイクルを中心とした環境共生型都市・地域の研究を北海道、愛知県、帯広市について行っております。電気自動車普及による新しい都市形態も研究しております。手法は応用一般均衡モデルと呼ばれるものです。土木計画学分野では既に幅広く用いられており、建築・土木系の方々にも容易に使うことができます。コンピュータプログラム、様々なデータセットも完備しております。

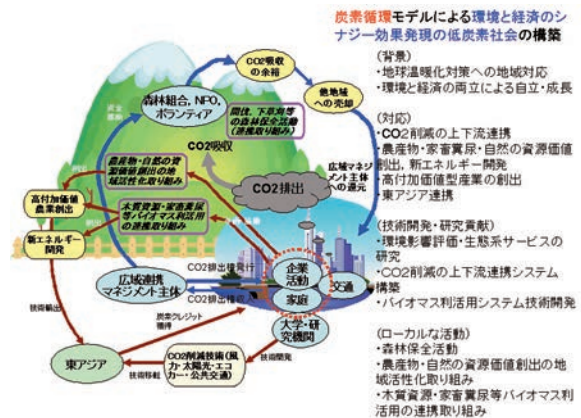


環境共生型都市のモデル図

テーマ2 ▶ 低炭素社会の実現性

Theme2: Realization of Low-Carbon Society

低炭素社会の実現は今日の環境問題の中で最も重要なものです。当研究室では既に10年以上も前に炭素税や排出権取引のシミュレーションを行っています。そしてそれらの効果が国民経済にどのような影響を与えるのかを計測しました。この成果は土木計画学研究論文集(1999)に掲載されています。手法は動学的応用一般均衡モデルです。テーマ1の手法に時間軸を入れ、将来を予測するものです。今後、愛知県、三遠南信地域、豊橋市などを対象に研究の幅を広げる予定です。

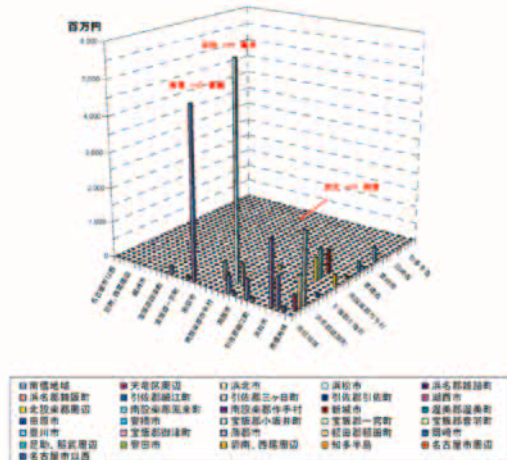


炭素循環を活かした地域づくり

テーマ3 ▶ 環境を考慮した空間経済モデルの構築

Theme3: A Spatial Economic Modeling with Natural Environment

空間経済学は余り耳慣れない言葉ですが、都市や地域のように距離の概念が入った経済学です。距離の概念が入ると理論は格段に難しくなります。しかしそうでなければ実際の都市・地域は研究できません。現在、愛知県、静岡県西部、長野県南部について空間経済モデルを構築中です。この研究では経済だけでなく個人や企業の立地も考えます。そして環境負荷としてはCO₂、NO_x、SO_x、浮遊粉塵、総窒素、総リンなどを対象とし、まさに総合的環境評価モデルを目指しております。この研究は科学研究費基盤Aとして採択されました。



三遠南信自動車道による地域間帰着便益